

「長岡ホノルル平和交流記念事業」 記者発表会 次 第

期日 平成26年12月3日

会場 日本記者クラブ

出席者

長岡市長 森 民夫

ハワイ日米協会名誉会長 エドウィン・ホーキンス

作家 半藤 一利

(出席者のプロフィールは裏面をご覧ください)

次 第

- 1 開会
- 2 VTR上映
- 3 登壇者紹介、あいさつ
- 4 事業概要説明
 - ・長岡ホノルル平和交流記念事業
 - ・日米の自治体レベルでの交流と意義
 - ・長岡とホノルル～平和を目指し果たせる役割
- 5 質疑応答
- 6 写真撮影
- 7 閉会

出席者プロフィール

森 民夫（長岡市長）

1949年（昭和24年） 長岡市に生まれる
1968年（昭和43年） 新潟県立長岡高校卒業
1973年（昭和48年） 東京大学工学部卒業
1975年（昭和50年） 建設省入省
1999年（平成11年） 長岡市長就任（現在4期目）
2009年（平成21年） 全国市長会会長に就任（現在3期目）
中央教育審議会委員、地方制度調査会委員、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問会議顧問などを務める

エドウィン・ホーキンス（ハワイ日米協会名誉会長）

1949年（昭和24年） 群馬県太田市に生まれる
1973年（昭和48年） 米国空軍士官学校卒業
米国空軍所属勤務
1980年（昭和55年） ハーバード大学卒業
2007年（平成19年） ハワイ日米協会会長
2014年（平成26年） ハワイ日米協会名誉会長
社会・文化・教育分野での様々な交流事業を通して、ハワイと日本の人々の相互理解と友好に尽力。特に青少年を育む教育事業や交流に重点を置いて活動。

半藤一利（作家）

1930年（昭和5年） 東京・向島に生まれる
戦時中、長岡に疎開。終戦を迎える
1948年（昭和23年） 旧制長岡中学校（現新潟県立長岡高校）卒業
1953年（昭和28年） 東京大学文学部卒業
文藝春秋入社。「週刊文春」「文藝春秋」の編集長、専務取締役を歴任
退社後は執筆に専念。昭和史を中心とした近現代史の著書を多数執筆
2002年（平成14年） 米百俵賞選考委員長に就任
2009年（平成21年） 越後長岡・米百俵塾名誉塾長に就任
日米友好の架け橋実行委員会顧問に就任
2010年（平成22年） 越後長岡応援団に就任

「長岡ホノルル平和交流記念事業」 記者発表会資料



Nagaoka City
長岡市



City and County of Honolulu
ホノルル市

資料一覧

長岡ホノルル平和交流記念事業概要について

別紙 1 長岡ホノルル日米友好記念事業委員会名簿

2 青少年を中心とした平和交流事業

3 真珠湾で慰霊と世界平和を祈る「長岡花火」打ち上げ

4 真珠湾追悼記念式典への出席

【参考】・ホノルル市長メッセージ（写し）

・長岡市とホノルル市との交流経緯

・ながおか市政だより（写し）

長岡ホノルル日米友好記念事業委員会

長岡ホノルル平和交流記念事業について

平成19年、全国市長会副会長として森長岡市長が、ホノルル市で開催された日米市長交流会議に出席した際、真珠湾攻撃の指揮をとった連合艦隊司令長官・山本五十六が長岡市出身ということから交流が始まった。

その後、世界平和をテーマに青少年交流や市民訪問団派遣などで相互理解を深め、平成24年3月、世界の恒久平和のために交流・協力していこうと姉妹都市を締結。26年8月、長岡ホノルル日米友好記念事業委員会に出席するため、カーク・コールドウェルホノルル市長が長岡市を訪問。終戦から70年となる平成27年に向け戦争の痛みを知る両市が共同し、次の世代を担う青少年を中心とした記念事業を実現することを決定し、このたび具体的な事業内容について両市が合意をする運びとなった。

■事業の目的

太平洋戦争終結から70年を迎える平成27年（2015年）に、姉妹都市である長岡市とホノルル市が共同し、未来志向をコンセプトに、日米間のさらなる友好と世界に向けて平和の大切さを発信する平和交流記念事業を開催する。

■実施主体 「長岡ホノルル日米友好記念事業委員会」（別紙1）

■事業概要

1. 青少年を中心とした平和交流事業（別紙2）

(1) 青少年平和交流サミットの開催【長岡7/30-8/3、ホノルル8/13~17】

両市の青少年が歴史・文化を学びながら、平和について話し合い、未来に向かって世界の平和を訴えるサミット等を両市で開催。サミット宣言を行う。

(2) パールハーバービジターセンター、長岡戦災資料館、山本五十六記念館3館合同シンポジウムinホノルルの開催【8/15予定】

それぞれの記念館や資料館が取り組んできた活動をもとに、歴史や平和の大切さをどう未来に伝えていくかをテーマにシンポジウム等を行う。

(3) 長岡造形大学によるハワイ大学との交流事業等【8/16予定】

長岡造形大学とハワイ大学の相互交流に関する協定を締結する。また、ホノルルの子どもたちを対象にした「長岡造形大学こどもものづくり大学校」を開催する。

(4) 市民参加事業（文化・スポーツ交流）【8/13-8/17、年間継続】

記念事業の開催に併せて市民訪問団を募集。また、平成27年1月には長岡市内の中学生がホノルルを訪問するほか、市民が主体となり、文化やスポーツなどを通じ、両市民の相互理解と交流を深める事業を、年間を通じ継続的に開催する。

2. 真珠湾で慰霊と世界平和を祈る「長岡花火」打ち上げ【8/15、8/16】（別紙3）

真珠湾内において、慰霊と世界平和を祈る長岡花火を打ち上げる。15日は慰霊の白菊のみ。16日は白菊のほか大型花火5台を打ち上げ。（約2,000発、約20分）

3. 真珠湾追悼記念式典への出席【平成26年12月7日（日）：ホノルル時刻】（別紙4）

国立公園局・海軍ハワイ司令部が主催する第73周年真珠湾追悼記念式典への招待を受け長岡市長が出席。長岡市出身の大学生と高校生も参列。

長岡ホノルル日米友好記念事業委員会名簿

(長岡側)

委員長	森 民夫	長岡市長
名誉顧問	東久邇信彦	日米友好の架け橋実行委員会名誉顧問
顧問	谷内正太郎	国家安全保障局長、元外務省事務次官
	今井 敬	新日鐵住金(株)名誉会長、元経団連会長
	藤崎 一郎	(一社)日米協会会長、全国日米協会連合会長、前:在米国特命全権大使
	半藤 一利	作家
	工藤美代子	作家
	櫻井よしこ	ジャーナリスト
	山本源太郎	山本五十六元帥の御子孫
委員	市議会議長や商工会議所会頭など市内政財界を中心に15名が就任	

(ホノルル側)

委員長	カーク・コールドウェル	ホノルル市長
名誉顧問	ジョージ・アリヨシ	元ハワイ州知事
	重枝 豊英	在ホノルル日本国総領事
特別顧問	リチャードL・ウィリアム	米国海軍少将
顧問	ダニエル・ディネル	ハワイ日米協会理事長
	ポール・デュブレイ	国立公園局管理局長
	ジーン・カリワグ	太平洋歴史公園協会理事長
	治福 司	ホノルルフェスティバル財団理事長
委員	エドウィン・ホーキンス	ハワイ日米協会名誉会長
	D.J.ホールダーマン	米国海軍大佐
	ジョルジット・デーマー	ホノルル市 副助役
	リンダ・C・タカヤマ	ホノルル市 経済部長
	浅沼 正和	ハワイ日米協会理事
	ウェイン・イシハラ	ホノルル日本人商工会議所会頭
	キャロル・ハヤシノ	ハワイ日本文化センター理事長
	リカ・ヒラタ	ハワイ日系人連合協会会長
	ドナルド・ヤネル	ホノルルフェスティバル財団副理事長
	ジェフ・ホワイト	ハワイ大学教授

1. 青少年を中心とした平和交流事業

(1) 青少年平和交流サミットの開催

【概要】 両市の青少年を対象に歴史・文化を学びながら、平和について話し合い、未来に向かって世界の平和を訴えるサミット等を両市で開催。サミット宣言を行う。

【対象】 長岡市側 市内中学生15名を公募予定。
ホノルル市側 (現在調整中)

【内容】(長岡プログラム)

- 7/30 ホノルル出発
- 7/31 午後長岡到着、歓迎セレモニー
- 8/1 非核平和都市宣言市民の集い、平和フォーラム、灯籠流し等
- 8/2 平和学習(戦災資料館、山本五十六記念館)、意見交換会、花火観賞
- 8/3 平和交流ワークショップ、午後長岡出発 同日ホノルル到着

(ホノルルプログラム)

- 8/13 長岡出発 同日ホノルル到着、パンチボウル献花、博物館見学
- 8/14 アリゾナ記念館見学等、平和交流ワークショップ、慰霊式典参加
- 8/15 サミット宣言まとめ、平和友好式典(サミット宣言)、花火観賞
- 8/16 ホノルル出発
- 8/17 長岡到着



▲相互の理解を深めあう異文化交流
(平成26年)



▲ホノルル・パンチボウルで献花する
長岡の中学生(平成26年)



▲8月1日に行われる非核平和都市
宣言市民の集い(平成26年)



▲長岡空襲のあった8月1日に柿川
で行われる灯籠流し(平成26年)

(2) パールハーバービジターセンター、長岡戦災資料館、山本五十六記念館 3館合同シンポジウム in ホノルル

【概要】 ホノルル市にあるパールハーバービジターセンター、長岡市の長岡戦災資料館、山本五十六記念館の3館が、それぞれ取り組んできた活動をもとに、次の世代を担う両市の子どもたちに、歴史や平和の大切さをどう伝えていくかをテーマに行うシンポジウム。

【期日】 平成27年8月15日(土) (ホノルル時間: 8月14日(金)午後を予定)

【場所】 ホノルル市内 (現在調整中)

【内容】

- ・ 基調講演
- ・ 各館長によるパネルディスカッション
- ・ 体験談発表
- ・ 子どもたちを交えた意見交換
- ・ 各資料館所蔵展示等



▲ 山本五十六記念館で、説明を受けるホノルル市の子ども達 (平成26年)



▲ パールハーバービジターセンターで説明を受ける長岡市の中学生 (平成26年)

(3) 長岡造形大学によるハワイ大学との交流事業等

長岡造形大学とハワイ大学の相互交流 (留学生の交換、共同演習、教員の相互派遣など) に関する協定を締結する。また、ホノルルの子どもたちを対象にした「長岡造形大学こどもものづくり大学校」を開催する。



▲ 長岡造形大学
学生数841人
国内唯一のデザインを専門に学ぶ
公立大学



▲ ハワイ大学マノア校
学生数20,006人
アメリカの大学キャンパスラン
キングトップ10にランクインして
いる。

(4) 市民参加事業（文化スポーツ交流事業）

【平和交流記念事業訪問団】

- ・公式訪問団のほか市民訪問団を含め200名規模の訪問団を派遣予定。
- ・日程は平成27年8月13日（木）～17日（月）の3泊5日
- ・来年1月に市民訪問団の第1次募集を行う予定。
- ・追悼式典や真珠湾での長岡花火観賞など各公式行事に参加していただく。
- ・少年少女合唱団など市民団体も平和友好式典などに出演予定。

【文化・スポーツ交流】

- ・これまでの姉妹都市交流事業をさらに強化拡充。
具体的には、毎年開催されるホノルルフェスティバルでの文化交流をはじめ、青少年野球交流、長岡市内高校生の科学分野やスポーツ交流など、幅広い交流を進める。

【中学生の海外体験ホノルル訪問事業】

- ・平成27年1月、中学1年生10名がホノルルを訪問し、アリゾナ記念館などを見学。
平和について学ぶほか、現地中学校での文化交流を行う。



▲ 市民同士の交流を深めるホノルルフェスティバル（平成26年）



▲ 交流試合等を通してホノルルと長岡の野球少年が交流（平成26年）



▲ 海外体験ホノルル訪問事業で真珠湾攻撃の説明を受ける中学生（平成26年）



▲ 異文化への相互理解を深める大学生の交流（平成24年）

2. 真珠湾で慰霊と世界平和を祈る「長岡花火」打ち上げ

(1) 打ち上げ日時と花火構成

①平成27年8月15日(土)午後3時(ホノルル時間) 8月14日(金)午後8時

太平洋戦争終結から70年の節目を迎え、両国の戦没者の慰霊と世界の恒久平和を願う花火を打ち上げる。

白菊3発「米国の戦没者への慰霊、日本の戦没者への慰霊、世界平和への祈り」

②平成27年8月16日(日)午後3時(ホノルル時間) 8月15日(土)午後8時

2日目となるこの日は、慰霊の白菊打上げのあとに、災害復興の支援に対する感謝、日米友好と姉妹都市交流のさらなる発展、次代を担う子どもたちの成長を願う大型花火を打ち上げる。

白菊3発「米国の戦没者への慰霊、日本の戦没者への慰霊、世界平和への祈り」

大型花火5台(スターメイン2、フェニックス花火、大型連発、天地人花火)

花火玉 約2,000発、 打ち上げ時間は約20分間

(2) 打上げ場所

真珠湾内(裏面参照)

(3) その他

- ・長岡公式訪問団及び市民訪問団も観覧。
- ・一般市民などの観覧会場は対岸に確保予定。



「フェニックス」
ホノルルフェスティバルに合わせ、ワイキキビーチ沖で打ち上げられた長岡花火(平成26年)



慰霊と平和への祈りを込めた白一色の「白菊」



「天地人花火」

真珠湾での「長岡花火」打ち上げ場所(予定)



3. 真珠湾追悼記念式典への出席

- (1) 式典名 第73周年真珠湾追悼記念式典
- (2) 主催 国立公園局及び海軍ハワイ司令部
- (3) 日時 平成26年12月7日(日)午前7時15分～9時15分 ※ホノルル時間
※開式は午前7時45分から
- (4) 会場 国立第二次世界大戦武勇顕彰太平洋史跡
真珠湾ビジターセンター「アリゾナメモリアルプレイス」
- (5) 出席者 長岡市長夫妻
高校生・大学生9名（学生平和交流プログラムin Honolulu参加生）、引率2名
市民部長、長岡市国際交流協会専務理事ほか
- (6) 日程 7:15 式典会場着席
7:45-9:15 式典
10:00-10:30 市長取材対応時間
11:30-12:00 黒焦げの水筒慰霊祭 アリゾナ記念館